



古今俳諧明題集夏部目錄

更夜 <small>コロヒカ</small> 并 <small>トビ</small> 拾 <small>ヒ</small> 後 <small>ノチ</small> 初 <small>ハジメ</small> 葉 <small>ハ</small>	當麻 <small>タイマ</small> 葉 <small>ツリ</small>	松 <small>マツ</small> 前 <small>マエ</small> 波 <small>ナミ</small>	昔 <small>アヲ</small> 暴 <small>アラ</small> 風 <small>カゼ</small>	新 <small>シン</small> 茶 <small>チャ</small>	布 <small>フ</small> 穀 <small>コク</small>	鹿 <small>カ</small> 茸 <small>ヒコ</small>	螢 <small>ホタル</small>	鮎 <small>アヲ</small>	抗 <small>ツク</small> 摩 <small>マ</small> 祭 <small>マツリ</small>	加 <small>カ</small> 茂 <small>モ</small> 祭 <small>マツリ</small>	夏 <small>ナツ</small> 駒 <small>コマ</small> 寺 <small>テ</small>	長 <small>ナガ</small> 月 <small>ツキ</small>	新 <small>シン</small> 麥 <small>マク</small> 飯 <small>イ</small>	杜 <small>ホト</small> 鵬 <small>トギス</small>	鳥 <small>トリ</small> 禱 <small>イノ</small> 巢 <small>スダチ</small>	蠶 <small>カヒコ</small> 繭 <small>ノ</small> 子 <small>コ</small>	鮎 <small>アヲ</small>	鮎 <small>アヲ</small>	鮎 <small>アヲ</small>
五	三	四	五	五	八至	十一	十一	十二	二	三	四	四	五	八至	十	十一	十二	十二	十二

古今俳諧明題集 卷之三

相花	蘇菊	新菊	卷心菊	野菊	蓄薇花	蝴蝶花	罌粟	芍藥	牡丹	蝦蟇	阿未加
サニ	サニ	二十	二十	十九	十九	十八	十七	十六	十四	十四	十四
賴相	白前花	藕荷	款冬	野薑	加佐之	唐美人	芙蓉子花	溪鱸	牡丹	阿未加	阿未加
サニ	サニ	二十	二十	十九	十八	十八	十七	十四	十四	十四	十四
櫻桐花	海帶花	紫藤	首	卷心芭蕉	續斷花	意波婦心	鸞尾	蜀葵	牡丹	阿未加	阿未加
サニ	サニ	二十	二十	十九	十九	十八	十八	十七	十四	十四	十四

滿庭枝	葉櫻	夏木立	加茂足齋	幟	五月晴	夏麻子	復猴	海蝦	剪春花	金銀花	新雄根	夏柳	常葉木	白葛	五月雨	水多葉	噴	莎	百合	萱子	紅藍花
サニ	サニ	後サ四	サ五	サ八	サ九	サ九	サ九	サ一	サ二	サ二	サ二	サ四	サ五	サ六	サ七	サ九	サ九	サ二	サ二	サ二	サ三
新雄根	海蝦	水多葉	同競馬	粽	水多葉	毛狐鳥	鯛牛	乾河	復菊	復毛	新雄根	夏柳	常葉木	白葛	五月雨	水多葉	噴	莎	百合	萱子	紅藍花
サニ	サ四	サ五	サ六	サ六	サ八	サ九	サ一	サ二	サ二	サ三	サ二	サ四	サ五	サ六	サ七	サ九	サ九	サ二	サ二	サ二	サ三

古今本草綱目集解卷之二十一

鶉親州 卅三
 青田 後卅四
 地膚 卅五
 紫茄 卅六
 粟蔚 卅七
 粉固花 卅八
 梔花 卅九
 栗花 卅九
 青小椒 四十
 石葛蒲 卅三
 耘 卅五
 菘 卅五
 水茄 卅六
 菰刈 卅六
 杜鵑花 卅七
 合歡花 卅八
 檨花 卅八
 依實 卅九
 小柚花 卅九
 青梅 四十
 田植 卅四
 藜 卅五
 早松 卅五
 紅豆 卅六
 裙帶菜 卅六
 紫陽花 卅七
 松栢花 卅八
 棟 卅九
 青小柚 卅九
 枇杷 四十

蕙 四十
 祇園神興洗 四十
 不夜垢洗 四十一
 不二香消 四十二
 暑 後四十二
 薰風 四十六
 鞍馬竹伐 四十八
 單 四十九
 浚井 五十
 葛粉水 五十二
 瓊脂茶 五十三
 山田御田 四十
 破 四十一
 不二消 四十一
 不二神言 四十二
 雲 四十二
 避暑 後四十六
 摺扇 後四十八
 竹夫人 後四十九
 曝布 五十
 殮飯 五十二
 冷麴 五十三
 松栢 四十
 氷窟 四十一
 祇園會 後四十一
 去周 四十二
 凍雨 後四十五
 暫者 後四十八
 園扇 四十九
 掛香 五十
 清水 後五十二
 餉 五十二
 練若毛子 五十三

古今片歌明集卷之二

彈 <small>ヒシ</small> 後五十三玉 五十四	飛鶴 <small>ヒトリハシ</small> 五十四	鶺鴒 <small>サバツリ</small> 五十五	鶺鴒川 <small>ウカハ</small> 五十四
川 <small>カハカリ</small> 後五十四玉 五十五	海 <small>ウキウキ</small> 後五十四玉 五十五	藻 <small>カハホ子</small> 五十六	藻 <small>モノハナ</small> 五十六
海母捕 <small>ウケトリ</small> 五十五	藻 <small>ウキウキ</small> 後五十四玉 五十五	蓮 <small>ハスノハナ</small> 後五十四玉 五十七	蓮 <small>ハスノハナ</small> 後五十四玉 五十七
芙蓉 <small>ヒシノハナ</small> 五十六	藻 <small>カハホ子</small> 五十六	蓮 <small>ハスノハナ</small> 後五十四玉 五十七	蓮 <small>ハスノハナ</small> 後五十四玉 五十七
剪刀 <small>オモダカ</small> 五十七	藻 <small>サギサウ</small> 五十七	鰓麥 <small>ナゲシロ</small> 五十七	鰓麥 <small>ナゲシロ</small> 五十七
剪 <small>フウラン</small> 五十七	地冬 <small>ツリカ子サウ</small> 五十七	鋸齒葉菜 <small>キリシサウ</small> 五十八	鋸齒葉菜 <small>キリシサウ</small> 五十八
風葉 <small>ヒアフギ</small> 五十八	地冬 <small>ツリカ子サウ</small> 五十七	虎身菜 <small>エキノシタ</small> 五十八	虎身菜 <small>エキノシタ</small> 五十八
射干 <small>ヒアフギ</small> 五十八	栴蓍 <small>クリンサウ</small> 五十八	壺盧菜 <small>エフカホ</small> 五十九	壺盧菜 <small>エフカホ</small> 五十九
葛花 <small>クズノハナ</small> 五十八	栴蓍 <small>クリンサウ</small> 五十八	向日花 <small>ヒナハリ</small> 六十	向日花 <small>ヒナハリ</small> 六十
匏花 <small>ハナシガ</small> 五十九	飯子花 <small>ヒルカホ</small> 後五十八玉 五十九	向日花 <small>ヒナハリ</small> 六十	向日花 <small>ヒナハリ</small> 六十
芍藥 <small>ワタノハナ</small> 六十	凌霄花 <small>ノリヒ</small> 五十九	水仙菜 <small>ヒナカリ</small> 六十	水仙菜 <small>ヒナカリ</small> 六十
麻 <small>アサカ</small> 六十	凌霄花 <small>ノリヒ</small> 五十九	甜瓜 <small>ハハウリ</small> 六十一	甜瓜 <small>ハハウリ</small> 六十一
	茅膏菜 <small>ハハトリクサ</small> 六十		
	益川 <small>アサカ</small> 六十		

百日紅ヒキウジツカワ 六十一
御後ソギ 六十二

玉滿タマミ 六十一

仙吉センキ 六十一

古今俳諧明題集夏部

更衣

并給 ころもくへ

あしせ

計のあはれなるに く ぞ な へ
 しのほとに柳 う ぐく や みる え へ
 見 こ や な 花 あ 倫 ん 見 こ や こ け も かへ
 抱 お とも を 袖 の へ と ち や 文 衣
 大 う 橋 へ 甜 は け に り ひ や あ ろ え へ
 瘦 こ へ も け は 秀 る 水 を へ
 飛 て 見 る 石 の 抱 園 や 文 衣
 厨 子 へ 伊 曳 出 け や 更 衣
 衣 は け を 出 す いろ く や こ ろ え へ

大坂 希因

芳室

凉信

今

玉斧

去 梅路

小川 谷水

加賀 後川

洗雪

古今俳諧明題集卷之三

去の秘室も跡やみ討てり
重石乃を譲りて
押お戸も志向に出り
うの花は後さやまさ
り見もむきハ短し
襟く小柄どおふ日や
蒲公英は給も飛つ
芽野し〜様しめく
変そのつらに出
いとびめはぬえ
肩衣乃俣り

六 樹
可 登
六 棟
一 紅
祇 德
竹 冊
汶 上
意 山
伊 山
洞 居
笑 林

こそぐきに力けりぬあえり
春の後追うけり出
宿ぬ戸をこ〜と
ああさびの川へ
控て見〜を認め
四條〜し〜の
夏瘦は一日齋
腹福が思〜の
四方〜鞠
捕卷〜子の

去 路
可 登
青 藍
上 七 塚
東 興
可 登
山 州
一 鼠
破 了
萩 丈

青簾

たれを

さうつふぬにふねの歌やききと産
女房を控へて出りてききと産
備前ハ山のそととさあをききと産

江 希 因
大 金 戸 谷
和 梅 人
芝 村

筑摩祭

ははき

櫓 乃く湯にかく水るはつる水

禹 貢

灌佛

と伐まかき木をえきめ
後が跡と老安住居あり佛せし

江 戸 明
為 谷

手ハ水の花飲一がむと佛せし
経持と夏結まゆひや華浄堂
水まじ花もまじりて仏せし
膝くまて人供一花房
高へても亦に紙きりて仏せし
踊りて水をめくほや華房
今煉の湯もくもや佛せし
蓮池ハまじりてあつた花房
歌ハまじりてあつた花房
まろまじりてあつた花房
若あまじりてあつた花房

涼 備
全 弁
百 弁
阿 坡
去 路
分 江
柳 波
雲 郎
破 了
信 濃 松 本
友 梅

日吉祭 ひえい

庚崎の雨 とほり

東起

加茂祭 かもし

糸 いと を あ け し て は つ ま は

去路

當麻祭 たいは

若 わ か に も た ま こ は 向 や 疎 仕 を
交 ま い は 地 を や 疎 仕 を

東起
因山

千米團 せんた

子米團 こ 米 團 今 や 松 栢 の 力 に 代 り ま

上毛岡野
麥央

夏駒牽 なつこの

素 す 約 の 虫 や 所 産 を お お ろ ろ し
約 約 章 や 奇 藤 に 松 枝 の 戸 ハ 志 げ マ
駒 駒 素 や 於 ハ あ る こ に ま ま し り

涼備
百夫
汶上

松前渡 まつまへ

麦 あ 積 に お の 的 や 何 が 嶽

真仙臺
等水

短夜 みどり

短夜や浅はるきづし月も忍む
みどりや炭はたきぬ御垣ち
短夜や歩けりさ夏之夜勞に
更どり夜や夏之末にも涼ひたす
短夜や床のまじはひとりにも

一紅
伊勢川寄
浮石
李北
五菱
凉儀

夏月 なつのはら

雨音か花へりり夏の日
汲水文のぬきてハ夏じりる夏月
白曉ハ水窓へ入るはなはのつあ

下毛真國
龜文
凉儀
李趙

夜はなむおろしきそれを朝日山

瀾城

青暴風 あまのあらい

そ吹くは青暴風にもよきあ
夏もよき来依露此林や夏あ
夏もよき来依露此林や夏あ

江戸
梅路
麥譽
三楚

麥秋 むぎのあき

此日此露もあまむあけ海
人里へ出さくはびり麦秋
麦秋もあま此露もあけ海

伊勢
青藍
萩露
風喬

夜に花も移れハ長一かゝるぎに
ほろも菜吉雲踏はは——
引も移了。又これを見や杜能
振愛り新衣皮靴やちとまひ
かゝるぎにだまらぬ雲をやりてし
結ひししを皆さげ愛やほろも菜吉
解魔法師
やあぶしを哀れとおもへちとまひ
うらみをも悔も古衣やほろも菜吉
畫き——橋を越て熱くほろも菜吉
作亭度採れうねり——杜能
空つれと採り——ゆる山や杜能

尾城 麥舟
露 川
可 登
梅 路
九 皋
楚 岫
江 戸 百 庵
涼 帘
白 枝
桐 井
能登輪鳴 其 葉

つりし歩の履衣をねまや中とまひ
つりし歩の履衣をねまや中とまひ
津田村橋をねまひ——ほろも菜吉
大伴——雪のけしやほろも菜吉
ねれぬさす故憐し旅人やちとまひ
孝後くふと備るも言——ほろも菜吉
ほろも菜吉出ああああ——
うけし孫の袖う——ちとまひ
梅——さす出あああ——
ほろも菜吉出あああ——
中とまひを乃はらう後

加賀 後川
禹 洗
江 夫
同 金 沢 泉
太 阜
下 毛 足 利 梅 志
岸 虎
江 戸 木 路
信 州 松 本 鶴 老
同 右 右 兒
伊 勢 山 田 東 棠

春間トウのあふむく霞やふとまきに
あふさぎの行儀やふとまき次
ほとまきぬ撫摩乃身はありし時
まやえと静シふつやほとまきぬ
春の葉に粗率ソも奈うそふとまきぬ
終心シもまふのう潤ニほとまきぬ
春の葉に静シもまふのう潤ニほとまきぬ
舟は眼メもやゆまの細ホほとまきぬ
ほとまきぬ村ニツツニ急シ中ナ一
のあふさぎに麻マも曉トやふとまきぬ
まねく茶チ此ニ一滴ニもほとまきぬ

杜 莫
左 琴
麥 林
温 故
素 花
讀 高 松
周 雨
越 後 雨 善 寺
一 紅
江 戸
濠 魚
伊 勢 山 田
夏 陸
卷 阿

割 膝ハりたふ衣ヒも終マよぞなとまきぬ
日ヒりあふさぎの思シまはほとまきぬ
まねく茶チ此ニ一滴ニもほとまきぬ
ほとまきぬ村ニツツニ急シ中ナ一
のあふさぎに麻マも曉トやふとまきぬ
まねく茶チ此ニ一滴ニもほとまきぬ

一 鼠
百 卉
青 藍
冠 子
乙 路
京 風 狀

布 敷 かむこ

かむこを家イもまびしう飛トてり
門カ志シ免メて傳ツを入ルあふさぎ
まてと一ニも

麥 林
曾 平
涼 帟

画馬廻るるり 位やかむことり
母乃と来り 叶ふもあちんことり
薯蕷の敷とそれハ井ありあ敷
うんことり 帝一や 圃此秋乃 著
かむことり 舟もむうふを岩小居る
の世とごあさひしけれも耳の扱
乃と来り 山り 著るるんことり
旭ほとり人きりふあちんことり
菊は出て居ぬ 虫突やんことり
葉田去れりふことり 来てかむことり
子時飯乃 談合あや づんことり

可 卿
出羽秋田
東
笑 材
青 藍
鳥 醉
白 枝
武騎西
美 白
柳 居
琴 詩
深 魚
越高本
文 鴨

ゆもれや日乃 踏ハうりかむことり
あふとく人むおぢう海一 かんことり

冠 子
一 鼠

割草 ぎやう

ふとふし 見れをうたふゆきうくし
龍 龍 舟 舟 ぬ川と晴しきやうくし
燕の群ハ 押いづるえさうきやうくし
舟舟舟舟に けりてきやうくし
うらひすの 浮れるきやうくし
拽船まははる 流るるやうくし
始 始 始 始 やるけりきやうくし

禹 月
可 由
玉 斧
洗 雲
仙 衣
雙 飛
去 路

涼衣を乃等々和々此きやうくし
多きし母新清好やまやうくし
山梅もりも和よきをうくし

涼衣
眠石
麥杜

鳥辭集 とらね

柳格を此格と信する辭集の如
綴紙乃まて染まらや 鳥 鳳
接へ先飛して告天子此まらら

養麥
瀾城
下毛那須
百尋

鹿草 ふくろ

鹿草何処うらうをたもひまら

涼袋

麦時此にうあきまらや ふくろ
友子此中に甲坼やぬらぬら此
城申尔社のそらまら ニチ

眠棠
竹石
維鳩

蝙蝠 ほろ

のほひあや ほろ 光放りま朽木よりあ
かほほ ほろ 糸口うきも糸し
堀師也と掃あか ほろ 糸口うきも糸し
うきほ ほろ 糸口うきも糸し
堀師や ほろ 糸口うきも糸し
のほ ほろ 糸口うきも糸し

百舟
眠石
破了
一鼠
白枝
江戸
伏國

かゝはるまゝお梅なるはさきかゝ村へ出依
塙橋やあつたふりくちのねもをうら
うはひもや画るまきへ方をうけてる
梅福や已う目やどふりのを冷し

涼素
涼俗
青藍
江舞巾

狂蟲蛾のひに

要せぬおまゝのうらうらひこか
ねのふりくちをこまきかひこら
卵くちもまゝのうらうらひ

隱岐梁山
江奇雲
笑林

狂蟲蛾のまゆ

涼しきもあつたまゝのうらうらひ

柳雪

螢のひ

冷ひきくちのうらうらひ
乃終くちのうらうらひ
去路
涼宇
其梅
涼俗
雪叩
杜門
白枝

奈舟を在る朽きりほるるのこ
糸よりたふし言残るに抱くかたさく
蒲の穂より冷しを思ふほるはる
隻袖たえやけり等々かたさく
塀塙乃麻眼やぬと来て飛はるる
故懐よりく新毎に挿かんそりか
草花ももさうも色花はるる
水草より淡くかまうや飛はるる
草花もた蒼くまももほるる
浮葉のたつたつたつたつたつた
かたさくかたさくかたさくかたさく

麻父 雲即 六村 涼素 雞山 祇翠 竹鶯 越前 可昇 阿僧 加峯

湖河に瀟々ハハとほかたさく
うさきにつすみの出来はるる
亭中に廻る僧は焼く草の那
いくいも橋のかくゆかたさく
にこそかたさくかたさくかたさく

涼佛 上毛前橋 不霜 素絢 笑林 青藍 去路 超波

蚤のこ

新しめは然るや懐の飛ぶ
雨の懐席鷹もさうへをかり

割縁り候てや春のころゆく

江戸 得往

鮎 ぶと

鮎の尾ぶとにきくく語ぐ

江戸 台澤

蜘蛛子 のくも

蜘蛛の子は皆下をいう一とぬく語

江戸 湖雲

蜘蛛の子やあまをねかすにきり

東起

貼鱗 けむ

如意輪の眉をたけしは毛む

似竹

鱧 えび

飛ぶ見て捷徑とてははあま

大和 林 焔

阿未加敝類 漢名 未詳

葉が巧とおりの色しあはかへ

涼 笹

音かほ声にハハハハハハハハハハ

飛 良

松魚 まつう

不^フ_ニ^ビ_シ^キ_デ 松魚に又^ア_ニ^ア_リ^ク_ハ 松魚

一 音

松魚に^ニ_シ^キ_デ 音は^ハ_ニ^ア_リ^ク_ハ 松魚

鬼 白

古今事類通考卷之三

十四

道志の山山呼呼水水一一ままつつ々々ののを
武可可涼涼
百川川
禹貢貢
涼袋袋
金谷谷

溪 鯉 あゆ

活活輕輕一一のの水水ににももののりり水水くく流流す
近一一音音
湖野野帆帆

牡丹

冷冷ひひつつくくとと思思ふふををおおどどりり牡牡丹丹が
上毛毛前前橋橋 雙雙飛飛
雞口口
玉斧斧
子永永
雨石石
涼袋袋
全
希因因
素輪輪
大和和樓樓井井 洛洛兒兒
胡周周

古今事類通考卷之三

十五

びーら^カバ^カ反へそ^カゆ^カぬが^カん^カハ
裏門へは^カ若^カは^カ出^カる^カ本^カ子^カ牡丹^カハ
月^カの出^カる^カ暈^カは^カ一^カか^カる^カ本^カ子^カ牡丹^カハ
目^カうつ^カマ^カに^カあ^カう^カり^カは^カ瘦^カは^カ不^カん^カハ
さ^カー^カら^カげ^カる^カ枝^カは^カろ^カへ^カれ^カ牡丹^カハ
偃^カ所^カを^カ存^カ乃^カか^カく^カる^カは^カた^カび^カう^カを
杉^カ戸^カろ^カう^カ獅子^カは^カを^カび^カく^カ牡丹^カハ
傳^カ年^カの^カあ^カも^カ奥^カめ^カれ^カが^カん^カハ
あ^カら^カ流^カに^カそ^カを^カ出^カと^カや^カる^カ牡丹^カハ
あ^カら^カ流^カに^カそ^カを^カ出^カと^カや^カる^カ牡丹^カハ
際^カく^カを^カ府^カに^カつ^カふ^カは^カん^カハ

麥舟
涼宇
李北
白陀
其梅
一鼠
雞山
五城
琴詩
可卿
下毛足利
濊竹

挿^カ巻^カに^カね^カの^カか^カき^カ海^カ回^カえ^カん^カハ
閑^カ山^カを^カ後^カい^カく^カか^カく^カ牡丹^カハ

山州
上毛桐生
舊礎

芍^カ薬^カや^カサ^カ日^カあ^カる^カえ^カを^カ家^カと^カす^カ

氏金崎
立鼠

熒子花 むたつ

遍^カ照^カハ^カ船^カも^カら^カぶ^カる^カ一^カき^カ子^カは
負^カふ^カこ^カ子^カは^カあ^カへ^カる^カか^カら^カつ^カを^カ
は^カり^カあ^カう^カと^カ橋^カう^カへ^カる^カか^カら^カつ^カを^カ
用^カの^カあ^カら^カ水^カの^カそ^カを^カ歩^カて^カあ^カら^カは^カる^カ

希因
美濃
吟水
雨鼻
越後高田
梅雨

野原のてそく池をカ加茂初カ望多
カ水際カにカ摺カ勢カ刀カのカ音カ也カかカ或カはカむカ
割カれカハカ魚カはカしカるカそカのカ幾カはカつカ
そカくカ後カくカ御カ池カ也カやカ加カ茂カ初カ望カ多カ
懐カにカ望カぬカくカさカあカまカうカさカつカつカ
水カ香カのカ流カくカ池カ也カやカかカさカはカむカたカ
カ笠カ子カたカはカ紫カ友カのカ流カくカ池カ也カ小カ幾カくカ
カ体カはカのカさカめカくカ存カくカやカうカさカつカつカ
濁カ子カりカどカ雨カハカ流カれカどカかカ或カはカむカ
カ跨カれカ子カのカ神カ附カやカ下カ茂カ初カ望カ多カ

可カ石カ 可カ樂カ
可カ也カ
涼カ伴カ
棠カ江カ
希カ因カ
柳カ居カ
露カ田カ
如カ本カ
伊カ勢カ山カ田カ
藤カ尺カ
同カ宇カ治カ
竹カ佐カ
加カ賀カ金カ沢カ
五カ

泉ホ多ホ人ホ本ホ在ホ迎ホしホくホあホまホりホをホ
ホあホしホにホ川ホをホあホまホりホけホりホ
ホとホあホりホしホるホ鞠ホ井ホ体ホ也ホかホまホりホ
ホ鶴ホ鳴ホもホ忘ホびホしホげホあホりホのホあホまホりホ
ホはホ小ホ笠ホのホ衣ホハホ裳ホもホ不ホ業ホ流ホ志ホ太ホ
ホ確ホりホしホ朱ホたホ下ホ戸ホれホ裳ホやホ着ホ子ホ也ホ
ホ粗ホ小ホ似ホしホぬホしホあホまホりホあホまホりホ也ホ着ホ子ホ也ホ
ホ業ホよホもホ下ホりホハホ着ホびホ不ホ業ホ流ホ志ホ太ホ

士シ鳳ホ
白シ山ホ
麥シ林ホ
雙シ飛ホ
笑シ林ホ
鏡シ前ホ福ホ岡ホ
白シ杏ホ
祇シ翠ホ
青シ藍ホ

蜀葵 あま

上ア之アをアほアすア何ア小アひアくア那ア

加カ賀カ
九カ
兆カ

木り倦ふるれ来る居る居る
ちりれほりりりある夢くれ
上むり隣へ見せれあふか那

備後福山 蘆道
伊勢井關 巴山

罌粟 けし

罌粟れもぬいねれ百に敷て居
徳ハ来ぬ日吉れあふけしれ美
約朱の一日道——けしれを
足まゑ那入りささむやけしのを
蝶くれあきれと返りけしのを
疵もけしれり糸りりあけしのを

涼袋 阿僧 さと見 涼袋 其梅 東起

敷るもれどさうく久しけ志乃本

涼袋

虞美人 びあん

美人きたふやめ歌時の折涼

奥仙臺 丈芝

鳶尾 いたら

紫羅傘やさもれやても歌う奈し
いらちりや何をもとく家棟の上

去路 李趙

蝴蝶花 ぐしや

銅鈴り家あり響きりやがれを

上毛高崎 巴穂

加佐久留末 漢名 未詳

あはれくふ下蝶をこ敷きや風くるは
なまひり新をまひりや風久さま
吹きともほきぬもれ風くるま
踏はるにおーや礼くち風くるは
見えまハ依茶のあねやたぐま

江戸 冬花

眠石

武蔵宮 溜水

青藍

冠子

意波婦知 漢名 未詳

いもぬちや 松北日法乃久小きく
いもちや 松北日法乃久小きく
いもちや 松北日法乃久小きく

希因

和鳴

蕃薇花 やうび

堅石のいあ小間門やとあーやうび

江戸 蘭臺

野蕃薇 はら

機おまのよけくぬきやむうび
同濟に袖ことあやばあうび

去杉戸 二毛

眠石

續斷花 をどま

刈にあさふもあうびをうり花
ほの時あさふもあうり花

大坂 温故

梅從

野燕麥 ちやひ

合子飲ハ狹ク水ノ流シ海ノ深ハ草ハひキ草ノ子
老ト大ヨリにサ花ノつツいてラちヤひキ草ノ子

沾雨
花明

苔花 こけの

若フ草クあテてモかハーコ節ノもハ花
路ハあノのハ又ハぬク水ノりリ苔ハ花
息ノ杖ノのハりリはリるハやハ苔ハ花
ふデ見ハはシ東ノのハ形ハやハ苔ハ花

江
舊戸
乙路
文儀
双飛

卷心芭蕉 たまぐさ

画リみのかハこハーハ又ハ了ハこハ芭蕉水

去路

卷心葛 たまぐさ

巻キぬキ糸ハけハ玉ハ水ハやハ葛ハのハ露

阿波徳島
来雪

歎冬 ふき

降ル雨ハとハ傘ハのハいハふハ歎ハ冬ハ圃

豊前小倉
如鼠

紫蘇 しそ

赤キ日ハのハ色ハやハ蘇ハのハ葉ハ圃

上毛前橋
不霜

新藕 はまの
うら

沟にくひいれ蓮をまきうらうら

足利
雨石

藕荷 はまの
うら

先花乃度とよふ蓮れ涼葉外
飛石のちづれい蓮をまきうら

涼傘
後川

筒 たけ
のこけ

筒やみどりいおともたをりしを
くげ乃こやゆらふまきうら

常陸
雞山
潭水

くげのこや見の齒根葉——

嵐雪

筒やみどりいおともたをりしを

去路

舟の子やまきうらに傳へて授けし

雲即

たけれ予乃おろしもやうら堀牛

涼袋

舟の子やまきうらに傳へて授けし

李北

筒やみどりいおともたをりしを

一鼠

くげ乃こやゆらふまきうら

湖秀

篠筒 のこ

まき乃こやゆらふまきうら

越中魚津
倚彦

まゝ乃こや 湖乃おろしに 燈のつき

女地錦

白荊花 まろり

う乃むハエに 毛満^{カサ}のりり
うのふや ^{カサ}うにハ 暈と 暈^{カサ}照し
うけ花や 清れ袖^{カサ}を 毛満^{カサ}も
白荊花や 清^{カサ}と 毛満^{カサ}も
うのふや 枯^{カサ}ハ 折^{カサ}る 毛満^{カサ}も
うのふや 月^{カサ}あつ 枝^{カサ}折^{カサ}る 毛満^{カサ}も
う乃^{カサ}也 執^{カサ}る 水^{カサ}毛^{カサ}も 毛満^{カサ}も

凉宇 楚岫 求古 下路八百市場 鬼白 凉袋 古由 武本 白水

錦帯花 つぎ

神垣^{カサ}も 田舎^{カサ} 折^{カサ}る 毛満^{カサ}も
似^{カサ}ぬ 乃^{カサ}又^{カサ} 脱^{カサ}ぐ 毛満^{カサ}も
毛^{カサ}も 乃^{カサ}又^{カサ} 脱^{カサ}ぐ 毛満^{カサ}も

斗白 凉湖 下毛那須 幽知

桐花 まろり

煽^{カサ}師^{カサ}ハ 井^{カサ}戸^{カサ}に 糠^{カサ}も 毛満^{カサ}も
桐^{カサ}乃^{カサ}也 小^{カサ}毛^{カサ}の 枝^{カサ}折^{カサ}る 毛満^{カサ}も
毛^{カサ}も 乃^{カサ}又^{カサ} 脱^{カサ}ぐ 毛満^{カサ}も
毛^{カサ}も 乃^{カサ}又^{カサ} 脱^{カサ}ぐ 毛満^{カサ}も

門瑟 凉袋 白枝 凉宇 胡周

とれを里乃雀も来くも相のむ

大和 晴帆

頼桐 ひきま

婿をくむに庭也 頼桐の奥ゆき

肥前平戸 兔延

おくもくもや 虫のまへ 雲久は

吐雲

桜桐花 ちよら

掃とのくちい晴を なりちよらに

上列赤岩 度江

満庭枝 ちくて

半に水とる乃が海もくちてけ

日高 呼雪

新生葉 ちん

水系屋の家棟をくちて新葉は

李北

花さく海外めくちて 収まうばく水

涼袋

やりにて纏乃出ぬち新葉は

玉芥

晩さくは森をぬく水留まうばく

涼洲

高底とらくそ路へるまのちのま

其梅

断株とらくまのくみまう葉は

一鼠

葉系本乃中くまのまのちのま

秋瓜

葉もれく陽はくまのまのちのま

一鼠

古今詩歌集卷之二

呼雪

上りも鐘櫛の重きまうりくま

芭叩

新雄楓

ハコリカ

漸み流り水柙れ終る新雄楓
鞠垣下へ堀乃砵りや日如く
乳房く眺る床やわうく

涼袋
希因
去路

葉櫻

スズ

葉櫻や中乃人老やぐり紫
紫さくくお田ノ舞くまや
紫修くくやもあまはぬぬささ

希因
似竹
雞山

實櫻

スズ

実さくくや花語を思よ志こい
くくくやあまを殊まひら

温故
琳李

夏柳

あつや

夏柳もぬれ飛び戸や夏柳
花にまき布袂もまやま
ゆれもまき好い夏柳

一鼠
涼帝
乙路

夏木立

あつこ

古今詩林 卷之三
 可登
 常陸小田
 丘
 可
 由
 涼
 袋
 双
 飛
 去
 路
 三
 楚
 白
 枝
 萩
 大
 琴
 詩
 起
 鳳

此ふにも私待人せよつこゝろ
 老りつれは老も尻毛也夏あま
 皆殺す馬士乃素紙お夏ゝと
 あまひ子れきにいハお新ー衣小立
 手枕ー遥の痕や奈川あゝ
 菅笠とさよーくのや夏あま
 目小儀と松と頼るやあゝ
 喜々あはれはれハ御ーあゝ
 又つあゝもあゝぬ帆お夏あま
 泉あり乃底いれあゝあゝ
 笠憑り佛の徳おあゝあゝ

虫一もむしをけ破るや夏あま
 湯かあゝ旭ヤナヒになりーあゝ
 挽工結いひささきやあゝ
 奥深りー津をたづねるやあゝ
 停ヒヤカリ午乃晴りー斜や夏あま

里 卿
 瀾 城
 李 址
 斗下毛足利 白
 平 胡

木下園 中
 響ウタけ象たの風をさくさくー木下晴
 漆ウツ膏もあゝとあゝとあゝと木下晴
 下馬おろく尻ウシのみささくー木下晴
 初ハジメ進も御ミツル首ウケくさくさくーあゝとあゝ

破 了
 雨 笠
 大 阜
 阿波日如佐
 文 水

古今詩林 卷之三

室のちんん禁れさやとあつやと
木下晴きけしのる乃降くみる
碑イダミアいぬガ健ガやこいこや又
花コトきこうしくよいこ水や木下晴

涼宇
鳥久
足利
玄芝
眠石

常葉木落葉

とさろまきのれちた

常葉木やしをけし裸と忍こく
出るおれやもけくあうぬに受る

日向延岡
青柯
備前岡山
雲鹿

加茂足齋

かじのあしざう

たのまわらふもくも足とけく

京
麥生

同競馬

競馬

競馬

榑列魚崎
園巷

白菅節

あやめのびし

涙其の糸ぐかりくやあやめく
あやめくささふハ涼き下に
五日まぐ水とさる阿やめく
十葉空氣につく日やあやめく
鎌冷く輝くく海るあやめく
筆おく筆さうく清やあやめく

麥林
志とん
桃隣
李北
下総多古
鍾子
涼洲

古今事類集卷之三

點瀉^{アキタ}了^シ一^ヒび^ツを^シ結^スて^キ依^ル白^{クサ}菅^ノ浦^ノ川

乙路

識^シの^ヤ

蕨乃^ハよ^クせ^ハこ^ハハ^ハわ^ハは^ハ結^スば^ハハ^ハ

江ノ 宗 瑞

山^ノ風^ノの^糸と^思ふ^ハあ^ルく^ハ乃^ハや^ハま^ハれ

希 因

い^ハひ^ハあ^げく^ハ峰^ハさ^びし^キ識^ハ

一 涼 侖

溪^ハさ^して^ハ思^ハの^見お^はは^ハを^ハ結^スや^ハ思^ハ

一 涼 侖

粽^ハき^ハら^ハゆ

縁^ハ以^テ水^ハこ^ハも^ハ結^スぬ^ルお^ハひ^ハ也^ハ若^ク粽

信 凉 袋
別 野 元
可 有

變^ハ結^リ板^ノ思^ハ少^キと^ハま^ハら^ハん^ハち^ハま^ハる^ハ川

五月雨^ハさ^みみ

石^ハも^ハ久^シた^ハら^ハん^ハ心^ハま^ハ時^ハを^ハま^ハる^ハ

甲 温
列 黒 沢
如 故

糸^ハ結^スる^ハり^ハを^ハま^ハく^ハも^ハ身^ハを^ハま^ハる^ハ

涼 宇

菘^ノ塚^ハに^ハ麦^ハ乃^ハ甲^ノ塚^ハや^ハこ^ハの^ハさ^ハあ^ハ也

涼 宇

あ^ハら^ハぬ^ハや^ハ心^ハの^ハあ^ハら^ハ結^スに^ハ塙^ハ牛

江 雨
戸 籠

五^ノ月^ノ雨^ハや^ハ舟^ノの^ハ思^ハ堂^ノの^ハさ^ハれ^ハ也

甘 棠

控^ハ船^ハも^ハ控^スく^ハお^ハう^ハれ^ハを^ハま^ハる^ハ

一 鼠

小^ノ油^ハに^ハし^ハ早^ノの^ハ早^ハを^ハま^ハる^ハや^ハさ^ハつ^ハを^ハも

白 枝

五^ノ月^ノ雨^ハよ^クせ^ハえ^ハく^ハぬ^ハま^ハ傘^ノの^ハ下

超 波

賓^ハノ^ハ一^ハ吊^ハ桶^ハの^ハ言^ハや^ハま^ハる^ハ

吟 風

古今事類集卷之三

梅法に日法をひあはさしき所免
多々るや、陸にちやい收、
山門に、まつくさや、
留く、あはさる、
紫陽の、あはさる、
川、あはさる、
石、あはさる、
挿、あはさる、
さ、あはさる、

武秋 雁志 全 乃 飛 千 竹 不 席 司 鮫 免 士 京 負 徳 可 也 米 仲

梅法に日法をひあはさしき所免
多々るや、陸にちやい收、
山門に、まつくさや、
留く、あはさる、
紫陽の、あはさる、
川、あはさる、
石、あはさる、
挿、あはさる、
さ、あはさる、

王 才 凉 袋 破 了 黄 牛 笑 林 凉 袋

五月 園

やみき

梅法に日法をひあはさしき所免
多々るや、陸にちやい收、
山門に、まつくさや、
留く、あはさる、
紫陽の、あはさる、
川、あはさる、
石、あはさる、
挿、あはさる、
さ、あはさる、

石見大田 邦 石 圭

古今和歌集卷之五

水鶏すゐけい

投ナくしにありぬ乃はうぬ袂たもと離はなるも
慈もたけけハ忍しのぶくひよ・うらふ
たろくあはれをたれとあきあはれ慈あはれ
をけれ飛とぶるこころにあける袂たもと離はなれ
之雲の志こころとあけをくひよ・うらふ
ろくあはれく水みづのうらみきくひよ・うらふ
と投ナくしにありぬ乃はうぬ袂たもと離はなるも
あはれをたれとあきあはれ慈あはれ

青藍 萩路 二毛 涼傘 希因 可枝 寛の之

煩鷺わづら

夏なつのもや沼ぬま田た子こ馴なれく竹たけきくひ

周防すおう國くに吹ふ

水鳥みづとり巢す并なら浮う巢す

うげとまのま

鼓つづみげとも卵たまごハくくぬくひなうれ
水みづ鳥とりの巢すはくくくき巢すハ
くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく

涼袋 双飛 一色坊加賀金沢 蕨あざみ守まも

夏鷹なつたか

静しずかたれ中なかも徽かほや多おほ樹たけの中

雄お鳩とら

古今和歌集卷之五

七二

毛脱鳥 とぬけ

風乃あひまよとふとや、おぬけを
像シとゆもあはれぬけを

兔 西 羊 洲

喚起鳥収音 うぐひま

うぐひまや、子にうひまけくまよ

白 枝

復獵 うぐひま

野ノに吹く、さねてや、
文りや、夏の獵場と大にあはれ
乃月よ火事や、お乃山まよ

破 梅 正 秀
了 路 秀

蝸牛 うご

雷う角ぶ、さあやうつ、
角むまびき、曲張ひえ、
あはれほ、
柳く、
播鐘乃、
あま

尾張

一 水

能登路

一 南

晚 九

禹 月

涼 袋

一 阿 坡

紫 音

苑

乙路
 如峰
 鳥明
 石井
 凉宇
 示行
 乙路
 乙路
 江
 乙路
 江

莎雞 おま

ちてれたやぢやへ之海嶽あり
 ちておまおまふも好乃終宵
 千山
 千林

避蚊火 マカバヤ

ヌラカホ
 壺
 唯一
 引裂
 下
 残
 添

涼—とを汚—くのがるうやうな
涼—とを後子—とくう品玲々奈
夏枝おとし火輝に遠くかや梨此
姑乃あふき起るるや—の好
秋輝乃あふく—く—く—く
一—きき—の消—く—く—く
淡—く—く—く—く—く—く
出—く—く—く—く—く—く
喜い—く—く—く—く—く—く

秋 年
雙 飛
一 紅
蓮 之
其 梅
白 志
江 尺
漁 遠
龜 文

乾河豚 似いぬ

風俗出乾くも奈や—く—く—く
涼—く—く—く—く—く—く
物—く—く—く—く—く—く

乙 路
東 鳥
青 藍

百合 ゆり

日—く—く—く—く—く—く
も姑おも—く—く—く—く—く—く
瞿喜如遮陽も—く—く—く—く—く—く
鷄に何と—く—く—く—く—く—く
折—く—く—く—く—く—く
手枕の影—く—く—く—く—く—く

涼 袋
吳 江
二 毛
双 飛
上毛前摺
友 枝
冠 子

首春蘿 ひげん

乾くふいもやーかひのむらあ

千林

夏菊 かづ

夏菊やま川流をえきく

河坡

夏菊にまきくや杖つくひの風は

花希園

萱草 くさ

極ふくく藁荷もどーのそれ

汶上

昔もいも今いもあはれそ
拙るるもやそも忘れそ
今朝もいもあはれそ

去路 近江日野
高涼字

金銀花 きんぎん

花はあはれもあはれも
金銀花の散やま

此君 周防三田尻
楽下

藤天蓼 ふじあま

あはれもあはれもあはれも

奥列来折
一而

紅藍花

バトの
さる

深川より物おもへし
新来の海が肌を水に洗はれし
あはれしはもと能く
唇もよもぬれし
るもよもぬれし

江戸女
二蝶

素園

涼袋

全

鵝觀州

かやっ
りく

夏乃姦やつり

園花

石菖蒲

石菖蒲 眼は見えぬ

周防山
舟
浦

田植

うき人より
真実人を待て
つれよも
抱え
暁
梅
湖
新婦

涼袋

太阜

素園

素園

涼袋

全

加賀金沢

露竹

古今戸歌明題集卷之三

北日

挿^{チヤ}處^ト如^カや^ハ子^コ乃^ノ泣^ナく^ハあ^ハ挿^{チヤ}く^ハゆ^ク
手^テも^モ挿^{チヤ}く^ハあ^ハけ^テを^シあ^ハり^タく^ハあ^ハり^タ
手^テ中^{ナカ}に^シ挿^{チヤ}と^ビ一^ニ挿^{チヤ}と^ビ一^ニ挿^{チヤ}と^ビ一^ニ
澄^スむ^ハす^ハ下^ゲ班^{バン}乃^ノ満^{マン}り^タる^ハた^ウあ^ハり^タ
兼^{カミ}に^シ子^コと^トあ^ハり^タる^ハ新^ニり^タる^ハあ^ハり^タ
心^{ココロ}呼^ヒと^トあ^ハり^タる^ハ鏡^{カガミ}と^トあ^ハり^タる^ハあ^ハり^タ

加賀

葉拾

涼戸

上毛高崎

麥仙

文東

水樹

五裘

青田あを

霧^{キリ}乃^ノ泣^ナく^ハあ^ハり^タる^ハあ^ハり^タ
流^{ナガ}る^ハあ^ハり^タる^ハあ^ハり^タ
水^{ミヅ}底^{ソコ}の^ノあ^ハり^タる^ハあ^ハり^タ

涼袋

信濃松本

實之

奥列二本松

一ノ声

澄^スく^ハあ^ハり^タる^ハあ^ハり^タ
乃^ノ尾^ビの^ノあ^ハり^タる^ハあ^ハり^タ

涼字

免士

耘^ヒた^タる^ハ

目^メ張^カく^ハあ^ハり^タる^ハあ^ハり^タ
水^{ミヅ}乃^ノ泣^ナく^ハあ^ハり^タる^ハあ^ハり^タ
男^{オト}氣^キ乃^ノ泣^ナく^ハあ^ハり^タる^ハあ^ハり^タ

能登七尾

麥風

上毛高崎

其由

素論

藜^{スズナ}あ^ハり

杖^{ツエ}乃^ノ泣^ナく^ハあ^ハり^タる^ハあ^ハり^タ

出羽

呂丸

古今戸部明集卷之三

地膚 きび

はきりしひれく階除へ掃もくは

上毛高崎
凌風

苺 ごいち

袂うしひ乃あそくゆく心ちごうな

出雲大社
もろこ

早松草 さまつ

早松くけかきまけるあも松ぼりり

武加須
晴山

老トヨリ大オホいイまマくク捨スくクあアまマ松マツ草クサ

涼戸

紫茄 むらさき

紫茄 むらさき

紫茄 むらさき

肥前長崎
里楓

紫茄 むらさき

自休

紫茄 むらさき

百夫

紫茄 むらさき

下毛那須
太呂

紫茄 むらさき

星斗

水茄 みながき

水茄 みながき

涼俤

紅豆 べんとう

紅豆 べんとう

上毛高崎
把菊

古今戸部明集卷之三

あまのこゝろをよめるささげうた

雲郎

栗蔭 あかい
あき

栗のききや 蔭乃拾ひりたりぬ中

上毛高崎
自祭

菰 刈 あこも
うり

ふゆのけむりもあまの菰刈

豊前小倉
李完

裾帯菜刈 すび
うり

水底の裾帯菜刈もあまの裾帯菜刈

佐渡
南竹

新竹 あたら
たけ

縮むに隠れおぼせこと

武八王子
進瓜

新井も利休とあまの葉

双飛

今脱と袴もありぬあまの葉

笑林

柳ほと出てとあまの葉

涼袋

蟬乃後こゝろあまの葉

雀阜

新井や西やあまの葉

青藍

風どろり葉を吹出せやあまの葉

素園

尺八のあまの葉

珈涼

ゆきけの齋ぬあまの葉

大和
千代

~~~~~とをよむと的やこと〜舟

江戸 千梅

新井や花こが〜とあがて  
まごぢる花も松よあや々  
新井〜と物忌のよふも依りし

上毛前裕 胡 鼠 一 帶 河

杜鵑花

さつきついで

五つ〜のも深ぬいあり〜山つド  
下崎〜陽乃 山花きりきり

江戸 女野 菊 涼 洲

紫陽花

あぢら

紫陽花乃下り〜水戸あやう川

大 阜

あぢらさあや 飛石の川 雲出  
阿ぢらさあや 毎日蝶と遊ぶ

和 水 紫 苑

粉團花

てま

乳母乃手を休めに殺やてあり花  
情の網子文きりや〜粉雪を

由 戸 去 路

合歡花

あぶの

杜鵑花〜と〜合歡花  
秋枝も倒れ〜涼〜あぶの  
み〜とあひ〜と〜合歡花

大和柳本 一 紅 奥州張園 布 声 古 笛

古今戸部明集卷之二

傾城ふおころされと見し祇ふのむ

涼宇

柘榴花 くろなざ

大坂

磯もあふ葉指ハ今少くも花ざら  
実のさきく笑ひうけしあむざら

すの  
芭叩

梔花 のちちる

筑後久留米

くらなりやうむむく合観をみゆの友

蘿洲

橘花 ももたち

橘やむういゆりの家ふさく

再可

枸橘花 からたち

奥州栗折

ううたらや苦ううひを殺るる

得秀

栗花 くりの

傷損乃なる夏秋そや栗のむ

鳥林

もはひううあくやや栗乃葉

双飛

佐香幾農波奈 漢名未詳

江戸

人ちう収非やさうきとくぬの友

介我

古今戸部明集卷之二

棟 あふ

じんまると棟や雨乃むくも

とせ

南天燭花 あまのろう

あまのろうやさしりいと

雲和

小袖花 こすべ

偷思 スベトをよくあつた少花袖

去路

青小袖 あせ

色乃鼻くくふく喜小袖

涼袋

下枝ーおせくさうぬき小袖

涼宇

青山椒 あせ

息つふく園能流や山椒

維鳩

青梅實 あめ

まも梅や男能凡も涼まる

双飛

枇杷實 あび

枇杷に実の入りや味さおの

遠江膳所 曲 翠

梅好の翁小や枇杷能冷ひ

東起

甚のい

桑花実也一抱くハ夏も茶餌

下毛足利  
遼雨

山田御田扇

やまだのこ  
あまがぎ

御田御持ぬ人ううあふあふ

幾曉

住吉御田極

むきよし  
あんなたうえ

吉日極女とらうたうえうれ

ゆまけく乳も人もうたう極うえ

泉州堺  
南天  
下総佐原  
鬼工

祇園神輿洗

ぎおんのこ  
あらひ

清れくつく涼水の聲も御雲昇

京一九

醴ひけよ

梅乃まろ丸今もくあひくう海

豊後球珠  
馬負

氷窟ひむ

水も氷包か成やひむらも

忘れくハ梅えよたらや氷窟も

衣乃人偏結くく氷窟も

二日くく涼み出るや氷窟も

涼依  
麥水  
瀾城  
破了

不盡垢離 ぶじん

富士垢離や雪とけのふ肥より  
垢離へ来ては雪よりあふふ垢離

江戸 孤屋 涼休

不二詣 ぶにま

物言を解ゆくやーふふ詣  
一日孤をーむうやふふ詣  
山の首に夏はくがけふふ詣

乙路 下見川 巳十 東起

祇園會 ぎおんを

祇園とやーあふとけふふいんこ

如水

祇園とやーあふとけふふいんこ  
祇園とやーあふとけふふいんこ

洗市 六棟

不二雪消 ぶにゆきの

今解る雪やーあふとけふふいんこ

涼休

富士初雪 ふじのゆきの

富士初雪 けふゆきの  
雪はとけぬふふ乃雪や今初雪  
禁へハ雪に消ゆふふ乃雪

涼休 西羊 麥汀

土用曝どよう

母人の振神ハルカミ入ハルカミりしあち用曝どよう一  
瓜ウリもえ乾カサひカサ籬カサびやち用曝どよう一  
るハルカミやハルカミいハルカミうハルカミづハルカミけハルカミるハルカミあハルカミちハルカミ用曝どよう一  
眉メジ尖ナギカナギもナギ獨ナギのナギ加ナギ勢ナギやナギちナギ用曝どよう一  
令コト龜カメ子コ松マツ足タラシ糸イトつイトるイトあイトちイト用曝どよう一  
氷ヒヤ蜜ミツやミツ砂スナ糖トウのトウ代トウ治チやチちチ用曝どよう一  
虫ムシほムシ一ムシやムシ廣ヒロ山ヤマをヤマ移ウツリさウツリるウツリあウツリ  
所トコロ隅隅小小る小ち小用曝どよう一

得牛 兔承 杉路 凉素 梅圃 乙路 破了 凉字

暑あつ

通トウ人ジン者シヤひヒきキ松マツ子コ丸マルつツくクあアちチさサうウれレ  
馬ウマ乃ノ尾ビ女メ心ココロ急イソがガ一ヒト葉エフあアちチをヲ水ミヅ  
一ヒト念ネンのノ魚イサもモなナるルるルあアちチさサうウれレ  
いイごゴうウだダにニちチをヲ乃ノなナるルちチ用曝どよう一  
水ミヅ垢カウのノまマ後ノチ一ヒト乃ノ家カあアちチさサうウれレ  
あアちチさサうウれレやヤさサうウれレ一ヒトあアちチさサうウれレ  
あアちチさサうウれレくク川カハのノみミどドきキあアちチさサうウれレ  
あアちチさサうウれレくク家カ一ヒト撫ヌうウけケくクあアちチさサうウれレ  
あアちチさサうウれレくクのノ家カにニあアちチさサうウれレ  
あアちチさサうウれレくクつツるルあアちチさサうウれレ  
傘カサのノみミあアちチさサうウれレくクあアちチさサうウれレ

江戸百太 洗雪 山城 荷葉菴 瑪曉 雨泉 斗光 殿了 青藍 舊山 凉袋 全



鞍子花乃落吹りさつらさ  
腰掛子袂のさぐらあつさつ那  
似城姑鏡へかよふつらさつ那  
蝶啼きつらさつらさつらさ  
不二の雪つらさつらさつらさ  
風鈴もつらさつらさつらさ  
射下乃一射り一箭くあつさつ那  
糸あつらさつらさつらさつらさ  
清虫の又あつらさつらさつらさ  
才俊もつらさつらさつらさつらさ  
やいらの皆元つらさつらさつらさ

鳥林 涼宇 李北 止弦 江雀 加賀金澤 布流 大和柳 蝶角 秋午 双飛 康千 如水

あつらさつらさつらさつらさ  
まろくさつらつらさつらさつらさ  
卷丹乃息吹りつらさつらさつらさ  
珊瑚珠あつらさつらさつらさつらさ  
後あつらさつらさつらさつらさつらさ  
今破れつらさつらさつらさつらさ  
あつらさつらさつらさつらさつらさ  
新婦乃つらさつらさつらさつらさ  
粘糸あつらさつらさつらさつらさ  
木枕つらさつらさつらさつらさつらさ  
牛の背に月影つらさつらさつらさ

能登七尾 北種 越中 虎因 鳥角 雲郎 江初八幡 帆保 兔士 全鼠 全和 古由

川中に艾ヨモギの如ごとび於ありてさなる  
新アサ株カをさきりて見みる者ものもあらず  
影かげもつく様よう一いつ節せつ於ありてさなる  
あつちの如ごとくもされぬならばな  
津つ合あ乃の可かなりなりとあつちと  
刈カりての四よ條じょうと通とるるははな  
砂すな乃の多たくもあつちとさなる  
三さん井せい乃の多たくもあつちとさなる  
雲う霞げ乃の多たくもあつちとさなる  
収か懐わい乃の多たくもあつちとさなる  
卷ま拍ぱく乃の多たくもあつちとさなる

深魚 西羊 素園 示行 宇秋 輕素 眠居 笑林 眠棠 雨篁

私わ心しん乃の多たくもあつちとさなる  
登のぼ中ちゆう乃の多たくもあつちとさなる  
一いつ志し乃の多たくもあつちとさなる

常陸貞壁 武本庄 女佳 月 五負

雲峰 くのこの

所ところ社しゃに古ふる教きやう乃の多たくもあつちとさなる  
蛤か乃の多たくもあつちとさなる  
霽は乃の多たくもあつちとさなる  
逆さか乃の多たくもあつちとさなる  
昔むかし乃の多たくもあつちとさなる  
けあつちとさなる

北枝 其汀 川夕 麥林 涼依 梅路

魚アサギ 鱈カサ 鱈カサ 鱈カサ 乃夕日也くもの影  
 流あまく物ももえんはそねに  
 るにーく牛のまゝあやもはさ  
 湖ウミの魚イサもほどきーくもはさ  
 暑き日かうわくづくやき乃出  
 涼ーさのやつれハえくそは家  
 野ノも朝アサにぬあどくもはさ  
 西行サイギョウと歎ナゲすーあきりきはさ  
 凍るや人ーもくはは海さく

凍雨 だゆふ

宜中

野上之

武野長

大阜

笑牛

秀陽

一声

兔士

珈涼

一鼠  
 青戸  
 上毛板鼻  
 文曉  
 六村  
 伊勢山田  
 麥浪  
 乾什  
 去路  
 越後高田  
 鶏山  
 泰龜  
 破了  
 凍るや一確ツクリやき水車  
 凍るよゆき水車

一鼠

青戸

文曉

六村

麥浪

乾什

去路

鶏山

泰龜

破了

凍袋

中少だちや母年一孤疎人子泣く  
凍るよ草へ丁班と上ヶくゆく

冬 涉  
雨 石

薰風 かぜの

空はく出く夏の盡や風薫秋

長崎 路 圭

避暑 ひさむ

涼一 ひや 袖へちのそく山を敷  
涼一 ひや 水乃中ゆく夕わしを  
夕よある物 もの しくゆく あま みる  
こおもれと おろ とも あ 夕 あ 夕 あ

涼 袋  
公  
止 絃  
許 六

後朽珠子梅唐そくそく あ みる  
あ あ たる あ 石 あ 通 あ 出 あ 出 あ みる  
川風孤鬱と あ け あ け あ け あ け あ け  
磬麿の葉へ あ 卵 あ ち あ ち あ ち あ ち あ ち  
能 あ 乃 あ 紀 あ へ あ ち あ ち あ ち あ ち あ ち  
樹 あ 壮 あ 士 あ の あ 人 あ 一 あ ち あ ち あ ち あ ち あ ち  
恥 あ 恥 あ 子 あ 汗 あ ね あ ぐ あ せ あ ぐ あ ぐ あ ぐ あ ぐ  
年 あ と あ け あ を あ 解 あ 乃 あ 落 あ 家 あ ち あ ち あ ち あ ち あ ち  
床 あ 一 あ ち あ ち あ ち あ ち あ ち あ ち あ ち あ ち  
葉 あ 枝 あ ち あ ち あ ち あ ち あ ち あ ち あ ち あ ち  
宛 あ 特 あ 橋 あ 一 あ 笛 あ け あ ち あ ち あ ち あ ち あ ち あ ち

蘆 帆  
能登橋  
免 舟  
輕 素  
竹 浪  
琳 李  
上列高崎  
瀾 城  
伶 也  
素 園  
白 枝  
江 紀  
影



角能人け裸くーくまふみう奈

文史

警者避暑 おどろきの

吾と探つる文おまきここの那

古由

鞍馬竹伐 くらまのたけ

竹伐けまぎハヤ おとこ ぬれハ中

丹後漆扶風

摺扇 あふき

孝行の短懐乃ふくれるあふきうら  
後うら かた 鬼のそよぐ何ふまう那

一鼠為谷

おさくとも雲乃ぬける何ふまう

眠石

衣は務ッ おとこ 海へまきあふまう

榎雪

もろく おとこ 名無教多何ふまう

信列松本琴時

折る持 おとこ 海へまきあふまう

奥列保原玉川

と おとこ 海画け暑き何ふまう

雀阜

團扇 あふき

老保乃名を おとこ 先く おとこ 雲を毎

加賀山中双飛

呵不時 おとこ ねあハぬらハハの那

山隣

榎 おとこ 乃 おとこ 海へ おとこ 先ハハの奈

破了

折 おとこ 海へ おとこ 先ハハの奈

紙壺

牧戸に火出曲りとするは常麻草

湖十

算 たらむ

あむむいそ結つ川もあむたらむ  
冷つこもこ一橋の陰やたらむ  
内外に寐物汗やたらむ  
紙乃飛ぶ懐沙一たらむ

青 藍  
武 我 后

可也 西羊

竹夫人 かだき

竹夫人のいかにまよふとはひいさよ  
目ハ改弦うあそむるや竹夫人

涼 体  
維 鳩

涼る寐る猶乃令婦や竹夫人  
まよふられこよはよきり竹夫人  
竹夫人いびき嫌ひ紙むつち  
抱膝やどらら向たるも骨の膚

上列 富岡 雲 岫

越 高田 見 風

素 琴

鼠 丈

掛香 かけ

懸多也あへむえちるぬ人でま

季 吟

浚井 はら

浚井や意好く瓜を口らふ

兔 士

曝布 ばら

もんろ 於ろ乃ろろろろろろろろろろ  
 善欠山乃新先事りろろろろろろろろ  
 飯れたろろろ中乃撮也ろろろろろろ  
 松りげ老ろろろろろろろろろろろろろ

上列茂園 下総佐原

長崎 宇鹿

清水 しみ

山の山 志が子出ろろろろろろろろろ  
 りひひろろろろろろろろろろろろろろ  
 立ろろろろろろろろろろろろろろろろ  
 魚ろろろろろろろろろろろろろろろろ

武村岡 桂露  
 涼袋  
 温故  
 鬼士

人ろろ乃法ろろろろろろろろろろろろろ  
 澄きろろろろろろろろろろろろろろろ  
 汗りきろろろろろろろろろろろろろろ  
 於禮の娘へろろろろろろろろろろろろ  
 玉藻へ娘撮れろろろろろろろろろろろ  
 一口ろ物ろろろろろろろろろろろろろ  
 一口ハ系紐へ吐ろろろろろろろろろろ  
 松葉ろろろろろろろろろろろろろろろ  
 冷熱ろろろろろろろろろろろろろろろ  
 運ろろろろろろろろろろろろろろろろ  
 飲ろろろろろろろろろろろろろろろろ

上毛天田 涼瓶  
 伊勢四日市 馬曹  
 武大宮 律水  
 武小川 百道  
 常陸府中 泉  
 素琴  
 雨室  
 洗雪  
 全  
 李址  
 涼袋



後々馬路新出さし一々何の事  
先途入り少くして志すも一々何の事  
剛力孤治掌る居留し一々何の事  
剃刀と髪一々何の事一々何の事  
見よゆけと鏡乃たおれ清水  
不冬孤新振むる何の事何の事  
静息一々何の事一々何の事  
大名乃よどし一々何の事も志す何の事  
公等孤雪と降る一々何の事一々何の事  
解去孤同乃動く一々何の事一々何の事  
結候一々何の事一々何の事一々何の事

一鼠  
文東  
東起  
輕素  
未了  
江扇  
入楚  
能登七尾  
秋午  
買明

振袖者後一々何の事一々何の事  
大猶志何の事一々何の事一々何の事  
あし一々何の事一々何の事一々何の事  
望乃端を岩乃く一々何の事一々何の事  
止る一々何の事一々何の事一々何の事  
岩にさくもとく一々何の事一々何の事  
空へ月ととく一々何の事一々何の事  
飲む何の事何の事一々何の事一々何の事  
湯杖を思ふ事乃捨る一々何の事一々何の事  
船政始函一々何の事一々何の事一々何の事  
贈る来た息一々何の事一々何の事一々何の事

一紅  
瀾城  
白枝  
祇棠  
以秀  
古硯  
画洲  
可御  
真列福嶋  
柳水  
斗光

和歌と昔作のさぬーろづのな 五仙  
本寄りまゝ 岩に日の霞は清らふ 斗十

葛粉水 いくざ

葛粉水や 庵へ居る馬のうへ 五  
葛粉水や 小指は爪もい可ぞ 大津 乙 列

瓊飯 いくざ

瓊飯の友や 河豚をむすべ 山城深州 元 政

餉いひ

紫系孤僕ーろづ 緋 東奴

瓊脂菜 いくざ

交遊賣孤あや 顔あり瓊脂菜 祇 巫  
安古んもやき物ありと去ろん 其 角  
まごごむ水も角やとろくむ 美濃北方 蘆 元

らんがうも水乃魚葉やとろろん 去 路

玉川乃いづつさけき戸 瓊脂菜 江 貞 佐  
えいわたろやうとろくとろん 几 山

冷餅 ひや

冷斜戸あ〜〜〜

支考

練告天子 練 告

好衣と〜〜〜

武本 紅

見〜お〜く人の言さ〜

武本 五 表

〜〜〜

武本 白 圭

蟬 蟬

新〜〜〜

双 飛

松〜〜〜

左 龍

〜〜〜

兔 士

うつふあは水汲り〜

庭 城

陰子僅芽世は〜

一 鼠

葉葉のぬけ〜

信列 可 枝

俣牛〜

素 秋

土〜

涼 備

極〜

尾 文

口〜

木 兒

帆板〜

冠 子

飛蛾蟲 ひこち

は〜で〜

京 野 童

鷓鴣川

涼いさおくひもあつこ  
皆麻ちくあつぬ火の川  
老の才孤子にあつこ  
新よとえつけくもあつ

梅路 涼袋 免士 眠棠

川漁

川がやうや独りやとの  
川がやうや独りやとの  
川がやうや独りやとの

長崎 涼袋 越馬田 梨里 糸虹

川漁中 柳の影 人の  
川漁中 柳の影 人の

加金沢 燕石 岬呂

瀛鱈

瀛ちまは海子に冷ぬ  
瀛ちまは海子に冷ぬ  
瀛ちまは海子に冷ぬ

田雲余市 汶上 楚梅 多少 凉州

鯖釣

釣たえと海子に冷ぬ  
釣たえと海子に冷ぬ

肥前平戸 楚外

海母捕 くらげ  
海母とま あしが 海母が あしが 海母の あしが

磯高松  
磯

萍 うき

萍や うき 萍の うき 萍は うき 萍を うき  
うきや うき うきの うき うきは うき うきを うき  
うきや うき うきの うき うきは うき うきを うき  
うきや うき うきの うき うきは うき うきを うき  
うきや うき うきの うき うきは うき うきを うき

希因  
全  
素  
双飛  
江戸  
換鵠  
大阜

うきく うき 一 うき 艘 うき 舟 うき も うき 舟 うき の うき 舟 うき  
うきや うき うきの うき うきは うき うきを うき  
うきや うき うきの うき うきは うき うきを うき  
うきや うき うきの うき うきは うき うきを うき  
うきや うき うきの うき うきは うき うきを うき

乙路  
麥林  
李北  
洗雪

藻花 あは

藻花 あは や あは 一 あは つ あは 花 あは 花 あは の あは 花 あは  
藻乃 あは 花 あは も あは 花 あは の あは 花 あは  
藻乃 あは 花 あは も あは 花 あは の あは 花 あは  
藻乃 あは 花 あは も あは 花 あは の あは 花 あは

江戸  
群午  
青藍  
双飛

菱花 あし

古今川歌明集卷之二

藤乃涼涼取也一のの  
夏秋取一後流也一美乃花

津國魚崎 瓦冷

南蘆

萍蓬州 ハクハ

加賀金江

岸呂

かハ初也一 一輪島とつきに如  
岸蓬也一 魚とれども物と  
ハハ初也 猪頸も流一 乃一  
かハ初也 一 取一 取一

素堂 希因 東奴

蓮花 ハハ

あ乃あけ取束の志一はす如每

志山

水乃れ卵も又水も花はれ

芋魁

水乃れ卵も又水も花はれ

洗雪

水乃れ卵も又水も花はれ

青藍

剪刀州 ハクハ

肥後八代 左嵐

水乃れ卵も又水も花はれ

鷺鷥州 ハクハ

桐生 宇冲

水乃れ卵も又水も花はれ

水乃れ卵も又水も花はれ

肥前 汶上

水乃れ卵も又水も花はれ

肥前 尾紫 貞

瞿麥 白こで

ちろくーしや半とくひくさるる  
あびーしや一輪つふさきとま

破子

風蘭

風蘭や夏結衣いさかきへや先り来る  
風蘭や眠た心象とあげゆく

上も下仁田  
梅布  
維鳩

地参 つりう  
みくさ

明やまきあやつりがほりうとほり

羨濃関  
李仁

鋸齒葉景天 さきん

乞極く毛虫をほりあきまんま

汶上

射干 ひあ  
あま

ひああまかきあか孔あなとおひり  
飛阿あまかきあか孔あなとおひり

出羽  
涼帝  
風草

旌節草 くまん

くまんあま大ふもあきあき  
あまあま大ふもあきあき

杉路

虎耳草 ゆまの

除くるものけしきやゆまの草

丹波漆  
仙壺

葛花 くずの

とるへおれをまきし葛花も  
散るまゝるまゝる水や葛の花  
川まゝ子のまゝまゝひやうまゝ

法路  
双飛  
涼宇

鼓子花 ひる

ひるがややきくのまに  
鼓子花やふれまゝるまゝる

下総横須賀  
一馬  
青藍

鼓子花や鼓子乃菊  
ひるがやや日陰のあけと小松  
飛つやや裂く篋乃くま  
鼓子もやどらうお花もまゝ  
ひるがやや梅の臉乃おもい  
鼓子もや何まを揺るもまゝ  
お花もやまゝ

涼袋  
全  
芳楚  
也  
有  
可  
由  
一  
鼠  
眠  
石

壺盧花 かぼ

ゆらぐほやまはかられくつ  
ゆらぐほやまはかられくつ

素園  
維鳩



ゆふぐちや月やふぐと白れあそ  
臺へ魚もや一好草あそぬ魚も  
ゆふぐちやもどけをえれ人の家  
臺へ魚もや瀬もあらさび人もあ

能登孫傳  
具  
越高田  
李  
洞

眠棠  
大至

匏花 ほづな

うぐいす花音乃イシモノ盒イシモノやむひさご  
糸も乃菰むぎはささぐぬひさごうな  
まゝゝの音をうぐいすむひさご

笑林

兩杏

上野瀬戸井  
州志

凌霄花 れいそう

凌霄花れいそうささやういく地乃

下総佐原  
恩明

向日花 ひまわり

日ひかりありや一むくさもうららぬ

芭叶

草綿花 くさわたな

是見あそ白もさくは草綿花  
今乃日一ぬくめく草綿花のたれ  
姑こりつねくぬやまらぬ

鬼塚  
武用戸  
其葉

伊勢山田  
文史

茅膏菜 ちんご

麻を——とらりまもたきとわし

加賀山中 桃夫

燈心草刈あり

まき、麻、鷹、るを刈人の踏も見は

肥後小川 養湖

麻刈あり

麻刈や志あひをえれを人がな

去路 義濃岐阜

麻刈やまゆあふりとのこ

童平 同長良

麻刈や一獲づり日あし

有琴

藍刈あり

藍刈や海産の綿も——りれど

上毛高野 吳鈞

甜瓜 まくハ

葉かしく鼠鳴しうまそけ

蒼狐

危下く人を拓くや瓜はたき

伊豫大洲 双瓜

醫者ハ——帯絞のやぬほくハ

梅丈

角門ハ——截切はまや瓜圃

州羽

草鞋を五ツくじもふやう圃

金谷

百日紅

百日おすの四み日ハ減——

とど狐

本はがりの作道がはより担をへり 李北

天満祭 まつり

私わがくハ水へまをつくすはるす  
提た燈とうで水もよめふはつりうを  
徳とく安やすく汗あせを流ながすへは祭まつりの那な  
子こ教かの花はなも飛とや梅うめはく

梅林

一鼠

青藍

瀨城

住吉祭 まつり

死し怖おそ橋はしり順のりはくすはるす  
上毛岡野

上毛岡野

御後 みご

海うみ山やまにおもくも水もみそぶか  
浮うのぬ小こ足あしくも船ふねや津つ後ご川がわ  
是こゝまくと長ながはよとつ津つ後ご川がわ

大至

田社

涼威

